

1. 基本情報

評価対象年度 (令和4 年度)

施策コード	421	施策名	自然環境の保全
将来像	4	豊かな自然と調和した住みやすく活気あるまち(「基盤づくり」の分野)	
まちづくりの基本目標	42	豊かな自然と調和した環境にやさしいまち	
主担当部	都市整備部	主担当課	水と緑と公園課

2. 施策の方向

10年後の姿	雑木林、崖線、屋敷林などの緑地や河川など、豊かな自然環境が適切に保全されています。		
施策の方向性	1	自然の大切さを広め、緑地や水辺など自然環境の保全に努めます	
	2	雑木林の再生と水辺と親しめる環境を整備し、うるおいを感じるまちづくりを進めます	

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

事務事業名	施策の方向性	担当課	令和4年度決算額
環境保全啓発事業	1	環境課	6,166
緑地保全事業	1, 2	水と緑と公園課	35,932
総事業費(施策の合計)			42,098

4. まちづくり指標

指標情報				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
①	名称	市が保全する緑の面積		目標値	5.6	6.9	7.1	7.1	7.1
	説明	—	単位 ha	実績値	6.9	6.9			
	抽出方法	公有財産台帳など		達成率	123.2%	100.0%			
②	名称	身近な水辺や緑に親しみを感ずると思う人の割合		目標値	75.0	75.0	73.0	73.0	73.0
	説明	—	単位 %	実績値	71.3(※)	71.3(※)			
	抽出方法	市政世論調査(令和2、5、8年度実施)		達成率	95.1%	95.1%			

※②抽出方法が世論調査のため、令和2年度の実績を記載している。

5. 評価(令和4年度実績に対する)

評価基準	評価※	評価理由
投入財源・成果(「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」)に対する評価	順調	<ul style="list-style-type: none"> ●市及び都が所有する公有林の他、民有林を合わせると約18haと市内の緑地は維持されている。 ●相続等による雑木林は減少する傾向にあるが、民有林への保全区域の指定や公有地化の取り組みにより緑地環境の保全に努めている。 ●雑木林と共存するカタクリやキンランなどのさまざま希少植物や柳瀬川回廊を彩る桜など清瀬市の水と緑が織りなす自然豊かな環境がシティープロモーションに大きく貢献している。

※順調「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している
維持「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある
停滞「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

令和4年度からの変更点	新型コロナウイルス感染症感染拡大前の状況に戻つつあり結果として各種制約事項が緩和され施策展開が活発化する。
-------------	---

7. 施策を進める上での課題

①	施策を進める上での課題	緑地の公有地化を進めるには多額の予算を要する。
	課題に対する令和6年度以降の取組	優先すべき緑地の選定を行い国や都の補助金を活用し公有地化を進める。
②	施策を進める上での課題	雑木林内の樹木の高木化や老木化の他、隣接地への越境枝や落ち葉など適正な植生管理を行う必要がある。
	課題に対する令和6年度以降の取組	雑木林の萌芽更新の他、公共施設のみどりの管理方針に基づき植生管理に取り組む。
③	施策を進める上での課題	市内雑木林においてナラ枯れの被害が進んでいる。
	課題に対する令和6年度以降の取組	雑木林の萌芽更新を進める。東京都の補助金を活用しナラ枯れ被害木の伐採を行い被害抑制に取り組む。